



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第二十七号〜

大寒 だいかん
一月二十一日



楠部の萬歳樂

七草、鏡開き、小正月。行事とともに、お正月が少しづつ去っていきます。季節は一年中でもっとも寒い、大寒を迎えました。

伊勢神宮の神田がある楠部町四郷では、二十日に「萬歳樂」が行われました。雅樂曲の萬歳樂ではなく、里に古くから伝わる年中行事です。

「萬歳樂」は、江戸時代中期、享保年間にすでに記録があり、明治時代以降も続いていましたが、昭和五十年に中断されました。そして地元の人々の熱意により、平成十二年に保存会が結成され、翌年楠部町全体の行事として復活されました。かつては一月十一日でしたが、今は人の集まりやすい一月の第三日曜になっています。

祭は、まず五穀豊穡を祈る「豊年踊」から始まります。室町時代の装束を身につけた舞人がお供え餅の入った木桶「由利」を肩に担ぎ、舞台を回ります。一周目は、「当年の早稲は、萬歳樂」と舞人が言うと、「まーんざらく」と観客からの囃子が入ります。二周目は、稗、粟。三周目は麦、大豆と品種が変わります。そして、舞人が交替し、中稲、晚稲と同じように祝言葉と言いながら回ります。最初の早稲の時には、「荷馬車に百万杯、萬歳樂」となっていた言葉が、後半の晚稲になると、「新幹線に百万杯」「ダンブカーに百万杯」と現代的な乗り物に変わってくるのがユニークです。

豊年踊がすむと、鬼が描かれた的を目がける弓射「鬼打ち儀式」が始まります。射手は、御神酒と小豆の入った握り飯で腹ごしらえをするのが習慣とか。里人の無病息災を祈って、今年も鬼が射抜かれたのでした。

文 千種清美